

2月12日 ルカによる福音書5章12～26節 今日の説教から

説教題：「秘密の癒し」

今日の聖書箇所は、イエス様が癒しの奇跡を行い、それを「だれにも話してはいけない」と、秘密にしておくようにと言った場面が記されています。ここでイエス様が行ったのは、全身重い皮膚病にかかった人に対する治癒の奇跡でありました。他の人々にうつさないために町の外に住むことを強いられた病人は、病によって痛みと苦しみを味わい、交わりから遠ざけられる孤独によっても心と体と信仰を蝕まれていたのです。彼にとって、病からの回復は苦しみを取り除くだけではなく、神様との交わりを取り戻す大きな喜びでした。

私たち自身は、今日の個所で癒された人のように、喜ばしい秘密を隠しておくことが出来ないものであります。秘密ではなくても、嬉しいことは誰かに話してしまうものです。私たちの交わりの中で、「こんないいことがあったんだ」と、つつい話したくなるものです。教会の交わりの中で、教会の外でも、私たちはそうして喜びを分かち合う群れとして確かに歩みを進めています。

本来であれば、私たちはそのようにイエス様が教えてくれている喜びを、誰にでも話すことが出来るはずなのです。私たちが神様に愛されているということ、私たち一人一人は小さな力しかなくても、神様は豊かに用いて下さるということ、私たちが神様の御心を実現できない時でも、神様の赦しは確かに私たちに注がれているということ、そして、私たちの人生が死という恐ろしいだけのもに向かっていてではなく、復活という希望に向かって歩むことが出来ているということ、そのすべての福音を、内緒にすることが出来ずにいつでもどこでも「しゃべってしまう」のではないのでしょうか。本当であれば、そうして神様を信じる教会が大きくなっていき、伝道によってそれぞれの教会が御言葉を求める人々で満たされるはずなのです。イエス様を求めて群衆が集まってきたように、私たちの教会も、多くの人で満たされるはずなのです。私たちキリスト者が本当に心の底から聖書の言葉を「喜びの言葉」として受け止めることが出来ていれば、それを誰かに伝えないではいられないはずなのです。

私たちは、御言葉をどのように受け止めているのでしょうか。不甲斐ない私たちを責める言葉なのか、掟によって私たちの行動を縛る言葉なのか、それとも、早く悔い改めなさいと私たちのことを急かす言葉なのでしょう。そのような側面があるのも事実ですが、御言葉の本質は、神様から私たちに対して注がれる限りのない「愛」です。神様の言葉通りに生きることが出来ない私たちのことをゆるして、私たちが信仰を歩むことが出来るように導いて、私たちが神様のために日々の業を行うことが出来るように、愛しぬいてくれている。その愛が込められているのが、私たちが日々受けているみ言葉なのです。

いま、この難しい時代を生きる私たちに、イエス様は「だれにも話してはいけない」とは言いません。ただ、そう言われてもおかしくないほどに、この日本において神様のことは、イエス様のことは未だに知られていないのも事実です。そのようなまだ整っていない時代に、私たち一人一人が注目されるのではなく、私たち一人一人が「神様を証しする」群れとして、神様のすばらしさを語る群れとして用いられている、その喜びをかみしめたいと思います。神様に用いられている、その心強さを胸に、今週一週間の歩みを、これからの歩みを共に進めていきましょう。

- 12:イエスがある町におられたとき、そこに、全身重い皮膚病にかかった人がいた。この人はイエスを見てひれ伏し、「主よ、御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」と願った。イエスが手を差し伸べてその人に触れ、「よろしい。清くなれ」と言われると、たちまち重い皮膚病は去った。イエスは厳しくお命じになった。「だれにも話してはいけない。ただ、行って祭司に体を見せ、モーセが定めたとおりに清めの献げ物をし、人々に証明しなさい。」しかし、イエスのうわさはますます広まったので、大勢の群衆が、教えを聞いたり病気をいやしていただいたりするために、集まって来た。だが、イエスは人里離れた所に退いて祈っておられた。